

P3-B-0822

群馬県高校野球メディカルサポートにおける筋痙攣対応状況

宇賀 大祐^{1,5)}, 阿部 洋太^{2,5)}, 高橋 和宏^{2,5)}, 浅川 大地^{3,5)}, 遠藤 康裕¹⁾, 中川 和昌⁴⁾,
中澤 理恵⁵⁾, 坂本 雅昭⁵⁾

¹⁾上武呼吸器科内科病院, ²⁾群馬大学医学部附属病院, ³⁾上牧温泉病院, ⁴⁾高崎健康福祉大学,

⁵⁾群馬大学大学院保健学研究科

key words 高校野球・メディカルサポート・筋痙攣

【目的】

群馬スポーツリハビリテーション研究会では、県内の各高校野球大会にて傷害に対するテーピングや応急処置、試合後のクーリングダウン等のメディカルサポートを実施している。筋痙攣は最も多い対応の一つであり、選手交代を余儀なくされることもある。本研究の目的は、メディカルサポートにおける筋痙攣の対応状況を明らかにし、適切な対応策について検討することである。

【方法】

対象は過去7年の全国高等学校野球選手権群馬大会とし、メディカルサポートの全対応人数・件数、筋痙攣の対応人数・件数、好発部位、各試合日の1試合当たりの発生件数(発生率)、発生時間帯、発生イニング、プレー復帰状況を調査した。また、気候の影響を検討するため、気象庁発表の気象データを元に、気温及び湿度、日照時間と発生率について、ピアソンの積率相関係数を用いて検討した。

【結果と考察】

全対応数は199名・273件であり、そのうち筋痙攣は75名(37.7%)・146件(53.5%)であった。好発部位は下腿及び大腿後面であった。発生率は大会初期の1,2回戦が平均0.37件/試合と最多で、その後は徐々に減少した。時間帯による発生件数はほぼ同様で、イニングは各試合後半の7,8,9回が多かった。気象データと発生率は、いずれも相関は認められなかった。夏季大会の筋痙攣は熱中症症状の一つとして現れることが多いが、気象データとの関連はなく大会初期に多いことから、大会前の練習内容や体調管理等による体温調節能の調節不足が一要因として大きな影響を及ぼし、そこに疲労が加わることで試合後半に多発するのではないかと考えられる。また、プレー復帰状況は、36.8%の選手が選手交代を余儀なくされており、試合の勝敗に影響を与えかねない結果となった。発生予防が重要な課題であり、大会中の応急処置のみでなく、大会前のコンディショニングや試合前や試合中の水分補給方法等の暑さ対策を中心に指導することが重要と考える。